

## 【R 1 8】 ノベル

# 『美人女教師から全裸ローソク罰を受け、 やがて性奴隷になる男子生徒』 ～風音と圭吾の物語～ 〔女教師と男子生徒の会話形式版〕

作：七条右京

## 【登場人物】

「宝修学園高校」の美人女教師と男子生徒

つきしま かざね  
・ 月島風音：美人女教師

きょうごく けいご  
・ 京極圭吾：男子生徒（2年1組）

2年1組の京極圭吾は、何度注意されてもスカートめくりをやってしまう。

今回は5回目と言う事で、女教師が特別指導と言う名の罰を与える。

やがて、何度もスカートめくりをする理由が分かり、圭吾は女教師の性奴隷となる。

## ○生徒指導特別室

月島風音：

「京極君、君は何回言ったら分かるの？」

「今回で5回目よ」

「この間も、もうしませんって言ってたわよね」

「そんなに、女子のパンツを見たいわけ？」

「先生のお仕置きで、恥ずかしい思いや痛い思いをしてるのに何故なの？」

「先生のお仕置きが、全然効果ないみたいね」

京極圭吾：

「先生、ごめんなさい」

「先生のお仕置き、恥ずかしいし、痛いし、怖いです」

「お仕置き、されたくありません」

「今度こそ、もう絶対にしませんから、許して下さい」

風音：

「京極君、駄目よ前もそう言って、今回で5回目よ、当然お仕置きをする事になるわね」

「しかも、今回はもっと凄いお仕置きになるわよ」

「覚悟しなさい」

「じゃあ、服脱いで裸になりなさい」

圭吾、服を脱いで全裸になる

圭吾：

「先生、脱ぎました」

「全部脱げばいいんですよね」

風音：

「分かってるじゃない」

「そうよね、5回目だからね」

「そのベッドに仰向けに寝なさい」

圭吾、ベッドに仰向けで寝る

圭吾：

「これでいいんですか」

「先生、今日は何されるんですか？」

風音：

「まずは、暴れるといけないから、両手と両足をベッドに拘束するわよ」

風音、両手と両足をX字にベッドに拘束する

圭吾：

「先生、こんなの始めてで、怖いです」

「ボク、何されるんですか？」

風音：

「京極君、今日はね」

「これ、この赤いローソクでお仕置きをするのよ」

「京極君のカラダにこの赤いローソクを垂らすのよ」

「熱いわよ」

「胸、乳首、お腹、脚、そしておちんちんにも垂らすわよ」

「覚悟しなさい」

「まずはローソクに火をつけて」

「これでいいわ」

「まずは胸に少し」